

ークサス水域、赤道水域に3分した。)

(宇田道隆)

11. アラビア海のソマリー沿海の大量斃死魚

(出所: P. Foxton: A mass Fish Mortality
on the Somali Coast
; Deep-Sea Res 1965 Vol. 12 17-19)

1964年8月7-21日、8月28日-9月7日英国調査船 Discovery号は国際インド洋調査作業中大量斃死魚及びイカ類遺骸を発見した。特にRas Maberの南の近岸水域に集中していてあと少数ばらばらと広域に南はRas El Cheil(7°55'N: 49°55'E)北は Guardafui 岬の方からアデン湾まで分布していた。魚種は75%までPorcupine Fish(バラフグ類)のCyclichthys echinatus(Diodontidae族)で、次が多いのはTriggerfish(カワハギ類)のOdonus nigerおよびAbalistes stellaris(Balistidae族)であつた。どれも普通の熱帯沿岸魚で産業的重要魚種は見られなかつた。

斃死原因は冷水湧昇のためとみられ、沿岸で最低13.2℃、沖合22℃以上。南東季節風の盛期でソマリー海流、北上流強く(6-7ノット)、沖合に向つて発散する沿岸で起つた。

(宇田道隆)

12. 海洋工学の生物資源収獲への応用

(出所: D.L. Alverson & E.A. Schaefers
Transaction of Ocean Science
& Ocean Engineering Vol. 1 1965)

色々な栄養水準での潜在魚類生産量の推算がなされているが、ある一定栄養水準に対する最大潜在生物学的生産量が同時代の漁具で推出されるとは思えない。大洋生産を最大にするにはこれまでの自然任せでなく、人為的に外洋の魚を集める手段を開発しなければならない。もつと能率的な漁具の開発は魚の行動に関する生物学的知識に結びついた機械技術を必要とする。大戦後より近代的で効果的な漁具漁法の開発に一層関心を増し、特に欧州アジアにみられ、旧来の漁業システムを一変さすほどの成果を見せたものもある。世界の膨脹する人口の食糧要求増加に見合う動物蛋白の必要が論議的となり、多くの指導的政治家及び水産学者は海洋蛋白資源に注目した。ざつと世界の魚貝類生産増加をみると、1900年約400万トン、1930年1000万トン、1950年ごろ2000万トン台で、1960年ごろ4000万トンぐらゐと倍増を続けており、将来必要な蛋白食糧の大きな部分を大洋が受けもち得るとの信念を支持させる。魚貝生産の年増